



写真等無断転載禁止

九十九里海岸のウミガメを見ませんか

大網白里市 平沼 勝男

7月14日、今年初めてウミガメを見ました。場所は九十九里町作田川の河口から海に出たところ。小型のアカウミガメのようです。空気を吸いに浮上したアカウミガメは、浮上したまま私の方へ近づいてくれました(写真①②)。例年ウミガメの出始めは今の時期、6月後半から7月にかけてです。



写真①



写真②

写真①② 私の方に近づいてくるウミガメ

しかし私がウミガメを目にするようになったのは2019年9月1日が最初です。場所はいすみ市の太東漁港。それ以前は見たことはありませんでした。漁港内で浮かんで消え、浮かんで消える物体に気が付きました。すぐにウミガメの頭であることがわ



写真③ 太東漁港に現れたウミガメ(矢印)

かりました(写真③)。ウミガメがいることと、その大きさに驚きました。甲羅の大きさだけで1メートル近くありそうでした。しかし、それ以降は見る機会が増えていきます。2022年からは珍しいという気さえしなくなりました。

7月から11月にかけては、いる場所へ行くと必ず見る事ができるからです。今となっはいつでも見られます。もっとも簡単に見られる場所をお教え



写真④ 片貝漁港

します。九十九里町の片貝漁港内と外側の浜です(写真④の白丸が漁港内、点線が外側の浜)。

7月14日のアカウミガメは点線の方です。写真⑤と写真⑥も点線。白丸の漁港内で撮影したのは写真⑦写真⑧です。ウミガメは普段水中にいます。しかし必ず空気を吸いに水上に顔を出します。ですから根気強く待てば必ずウミガメを見る事ができます。最近は人に慣れてきたのか、岸近くに寄ってくることもあり、運がよければ足元でウミガメを見る事もできます。



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧

写真⑤～⑧ 片貝漁港のアカウミガメ

ウミガメの種類ですが、日本近海で見られるのは、多くがアカウミガメ、たまにアオウミガメもいます。しかし海で見るウミガメは水上に頭や甲羅の一部しか出してくれないのでこの見分けが難しいです。最近、人の紹介で頼もしい人と知り合いになりました。

「一宮ウミガメを見守る会」の会長渡部明美さんです。色々とお話をいただきました。上陸して産卵をするのはアカウミガメ。アオウミガメは上陸・産卵はしないけれど日本近海を回遊しているそうです。確証はありませんが 2019 年 9 月の太東漁港で見たウミガメ（写真③）はアオウミガメの特徴が合います。

両者の詳しい見分け方はネット等で調べてください。うろこの形、頭の大きさ、くちばしの形などで

見分けます。他にアカウミガメは体にフジツボなどをつけることが多く、雑食性。アオウミガメの体はきれいで、通常はフジツボなど付けません（体の弱った個体は別です）。そして草食性です。雑食の前者は死んで浜に打ち上げられるととても臭く、後者アオウミガメはそれほど臭くないそうです。これは私も経験済みで、本当にその通りでした。

最近、砂浜にいるはずのないオキナガレガ二が砂浜で発見される事例があるそうですが、これはアカウミガメに付いて来ているそうです。アカウミガメはその体にフジツボだけでなくいろいろな生き物をつけて移動するのですね。渡部明美さんの情報ではこの記事を書いている 7 月 16 日現在、一宮海岸で 7 か所のアカウミガメの巣（産卵場）があるそうです。

下大和田水質調査報告 第3回

千葉市稲毛区 新井 桂二

今回は 2022 年の報告となります。

調査地点をあまり詳細に公表しますと、それがヒントとなって、業者による乱獲の原因になることがありますので、今後は略号で表記することとします。どうしてもお知りになりたい方はメールにてご連絡してください。2022. 3. 2 の水温は計測器故障のため、鉄は計測器購入前のため数値がありません。また、桁数が違うのは計測機器の変更によるものです。この表を見る限り、

水温：これは天候にもよるのであまり参考にはなりません。ただ⑩のように 4 月でも 30℃を超えている場所があることは驚きです。

pH：ほとんどの調査地点が 7.0~8.0 の間に収まっていますが、⑧のちば環境情報センター（以下 CEIC）の下田（いつも平沼さんがトラップを仕掛けているところ）だけが 9.5 という、これはもう硫酸でも撒いたほうが良いのではないかという数値になっています。CEIC の水田は年間調査ができましたので、後述します。

NO₃⁻：千葉市は湧水・農業用水ともに硝酸イオンの濃度が高いですね。場所によっては桁違いに高いところもあります。⑩~⑳ は完全な谷津田で、CEIC のように周囲や上流に畑が無いせいかもしれませんし、採水地点付近に死骸等が埋もれていれば当然高くなるでしょう。この点からの周年調査の必要性を感じました。また、⑧は硝酸イオン濃度が 0.0 と周囲の水田とは明らかに異なります。pH とともに何度も計測し直したのですが、結果に大きな違いはありませんでした。そこで水質検査機器のハンナ社の担当とともに再計測しましたが、結果は変わらず、担当者も頭をかしげておりました。

この⑧の異常さは、私を迷宮に引きずり込み、この後さらなる調査方法の変化とそれに伴う大散財を招

くこととなりますが、今回はこれくらいでやめておきます。

表.測定地点と測定項目

20223		水温 (°C)	pH	NO ₃ (mg/l)	鉄
①	2022.2.22 ろっぽう用水		7.0	3.1	
②	2022.3.16 水の里公園湧水		7.2	6.9	
③	2022.3.16 水の里奥湧水		7.0	4.0	
④	2022.3.16 川戸橋		7.0	11.7	
⑤	2022.3.16 緑化植物園井戸		7.0	7.6	
⑥	2022.3.20 C E C水路		7.0	25.0	
⑦	2022.3.20 C E C上田		7.0	2.4	
⑧	2022.3.20 C E C下田		9.5	0.0	
⑨	2022.3.20 C E Cホソ		7.0	9.5	
⑩	2022.3.20 C E C上流		7.0	10.4	
⑪	2022.4.12 K院下	19.9	7.49	5.4	0.11
⑫	2022.4.12 K院下の上流	18.5	7.45	6.9	0.17
⑬	2022.4.12 K院谷津田終りの柵	19.1	7.41	1.1	0.21
⑭	2022.4.12 K院裏道路下の柵	17.8	7.82	2.6	0.27
⑮	2022.4.12 K院裏道路下の柵下流	18.0	7.6	1.3	0.24
⑯	2022.4.22 Y揚水	16.0	7.65	0.1	0.0
⑰	2022.4.22 Y流れ込み	18.3	7.3	5.4	0.32
⑱	2022.4.22 Y本命水路	20.3	7.36	0.0	0.41
⑲	2022.4.22 Y水路下流	19.8	7.36	0.0	0.44
⑳	2022.4.23 Y水路脇の田	30.3	7.45	0.0	1.87
㉑	2022.6.17 K院下	18.7	7.40	4.9	0.4
㉒	2022.6.17 K院下の上流	18.4	7.45	6.9	0.17
㉓	2022.6.17 K院谷津田終りの柵	19.7	7.41	2.4	0.60
㉔	2022.6.17 K院裏道路下の柵	17.8	7.82	2.6	0.27
㉕	2022.6.17 K院裏道路下の柵下流	18.0	7.60	1.3	0.24
		°C		mg/L	mg/L

Fe：千葉の土壌は鉄分が多いと聞いていましたが、予想ほど多くはありませんでした。ただこれも、⑳のように跳び抜けた数値の場所もあり、これも近くに鉄製品（例えば耕運機の回転歯の欠片）が埋まっていた可能性もあります。

このことから、本来は一つの調査地点に対し数か所のサンプルの平均で考えるのが妥当かもしれないと考えるようになりましたが、試薬の関係で現実的

ではなく、跳び抜けた値は考察時に前後採水日との対比から異常値として除外することとしました。

ところで、皆さんは池や川または水槽のpHについてどうお考えだろうか。日本の水道水はほぼ中性(厚生労働省の基準では5.8~8.6が安全とされている)であるし、健全な一般的な河川(温泉地や工場排水の影響のない)の水もほぼ中性(弱々酸性)と言ってよい。ところが止水(池や水槽)となると話は変わってきます。

我が家には多くの水槽があるが、エサと濾過は同じで水草の入ってない水槽と水草が繁茂した水槽では、明らかに水草の繁茂した水槽の方がpHが高いですし、調査でもCEICの一部の田んぼや用水池はpH9をはるかに超える水域も見られます。

これは、水草の水槽では光合成によって水中のCO₂(H⁺+HCO₃⁻)が吸収されたためpHが上がり、水草のない水槽では魚類の排せつ物に含まれる有機酸などで酸性化が進むといわれています。用水池の場合周囲を囲ったコンクリートからカルシウム分などが溶けだしpHを上げていきます。また、水温によってもpHは変化します。水の電離は吸熱反応(熱を吸収して進む反応: H₂O + e ⇌ H⁺ + OH⁻)であるため、水の温度が上がると右向きに進みます。

ここでOH⁻の受け手(おそらく主に鉄)がいれば、水素イオンが増えるためpHが下がります。まだまだpHが変化する要因はたくさんあります。つまり

止水域のpHは相補的なものであり複数の要因が絡み合って決定されているようです。因みにpHが低下する要因の主たるものは、酸性雨(通常の雨もCO₂が溶けて酸性ですよ)・有機物の腐敗などがあげられ、上昇する主たる要因は植物の光合成(pH9程度まで)・カルシウムなどの鉱物の溶解喉があげられます。

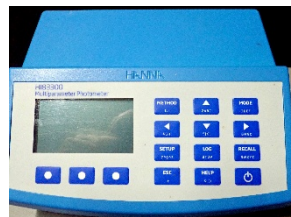
これらのことからCEIC下田のpH9.5は繁茂した緑藻類(アオミドロ・アミミドロ他)による光合成が原因かもしれません。また、前回の長柄横穴遺跡周辺の池①の10.0はラン藻類(アオコの仲間)の光合成とコンクリート護岸の影響と思われます。

最後に分析機器の紹介をいたします。①は自作の二段濾過装置です。②は多目的吸光光度計、③はポータブル吸光光度計です。②だけでは時間がかかりすぎるので、同時分析のために数点購入しました。精度は変わりません。④はカラーでないのが残念ですが吸光光度計で計測後のサンプルです。試薬によって色や濁りが変わり、それを吸光光度計で計測するわけです。ちなみに、左から順に亜硝酸はピンク、硝酸は茶褐色、鉄はオレンジ、リン酸は青色、アンモニアは黄色、カリウムは白濁、です。このうちカリウムとリン酸、アンモニアの試薬は毒物なので行視野に委託して処理してもらっています。

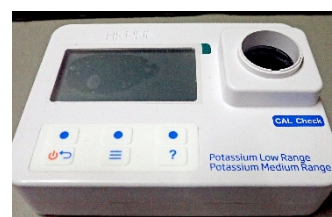
さて、次回は2022年度のCEICの周年調査の結果報告となります。



図:分析器 ①二段濾過装置



②多目的吸光光度計



③ポータブル吸光光度計



④吸光光度計で計測後のサンプル

新浜の話 78 ～浦安のコアジサシ (1998年)～

1998年5月23日、浦安市高洲地区の埋立地に行った観察舎の大黒柱2号、佐藤達夫さんから電話がありました。達夫さんは休みといえは時間のあるかぎりコアジサシの調査に出ており、千葉県下の繁殖地のほとんど全部をまわっています。

「石川さんに言われた場所。工事現場でコアジサシが産卵をはじめていました。柵で囲われて、連絡先が書いてあって、電話したら事務所に来てくれと言われて。すぐにでも工事にかかる場所なんだそうで、所長さんといっしょに現場をまわったら、コアジサシとシロチドリの巣がありました。どうしようかとは思ったんですけど、食い下がってみたんです

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

よ。そうしたら、結局のところ、工事を延期してくれることになってしまったんです」

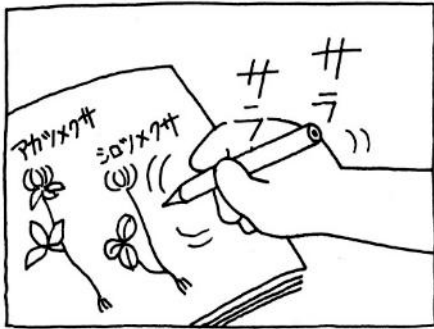
よかった、よくやったじゃない、と大喜びの私に対して、達夫さんはまだ悩みぬいています。

「でも、7月中旬までと念を押されました。まだ飛べないヒナがいるうちに工事を始めることになるかもしれない。工事現場の人だって、生活がかかっているわけでしょう。無理に止めてもらったりして、ほんとうにいいんですかねえ」

翌日午後、達夫さんが浦安に出かけたのと入れちがいに、工事事務所長の牧野さんが観察舎に来られました。「工事延期の理由書を出そうと思っているんですが、佐藤さんに見てもらおうと思って」

スロマン 作: 7月ま あまに

43



つやまあまひこウェブサイト
21世紀絵コロジ〜 <https://2leco.net/>

書面には、実にていねいにコアジサシのことが書かれていました。日本だけでなく、世界でも希少になりつつあること、なんとか繁殖を成功させてやりたいこと、そのためにヒナの飛去まで工事を延期する……7月中旬ではなくて、「ヒナの飛去」と書いてあります。すごい！

清水建設の「特別養護老人ホーム等建設現場事務所」のコアジサシ保護対策はそれだけではありませんでした。工事延期だけでもたいへんなのに、所長さんは日曜にわざわざ出てこられて、上空侵犯のラジコン飛行機愛好家たちに注意されたり、なんと足場用の鉄パイプと鉄板で観察台まで作られました。2階建ての高さで4畳ほど、ブルーシートで前面をおおって人かげが見えないようにしてあります。達夫さんはボランティアの麻生直樹さんと毎週通って、日曜には終日監視を続けました。

6月なかば、コロニーは190つがいと東京湾最大に。卵が雨で流されたりカラスにとられて、半分ほどに減りましたが、工事現場のみなさんも育つヒナたちを楽しみに見守っていただきました。



コアジサシ 1974年8月12日(新浜・撮影:田中正彦)

ほとんどのヒナが無事に飛去した7月下旬、再び達夫さんの悩みがはじまりました。「コアジサシのヒナはあと1組だけになりました。まだ小さいけど、できればお盆休みの前に工事を始めたいという話なんです。50mほど離れた手をつけない場所に親子を移そうとしてみました。シロチドリを移したら、すぐに自分で戻ってしまっ。コアジサシも、親に見せながら運んだけれど、親がもとの場所にしか下りないんです。所長さんは来週までしか待てないと言われて

7月29日、調整がうまく行かず、繁殖中のコロニーで工事が強行されてしまった別の場所の視察立会いに行った達夫さんが「朗報があります」と帰ってきました。「帰りに清水建設の事務所に寄ったら、お盆明けまで工事を延期したと言われました。コアジサシもシロチドリももう大丈夫です」

よかった。ほんとうによかった。昨年の妙典土地区画整理組合といい、今年の清水建設といい、きつい工事日程をやりくりしてコアジサシの繁殖を守ってくださった現場のみなさんの心意気に心から感謝しています。いつか日本でも、こうした風潮が当たり前になることを祈ります。

(註) 日本野鳥の会東京の支部報「ユリカモメ」1998年9月号掲載稿「コロニーが守られた」を「小説家になろう」に「新浜だより1992年~2000年」として再録、さらに手を入れて本稿とした。

【発送お手伝いのお願い】ニューズレター2024年 9月号(第325号)の発送を 9月 6日(金) 10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか…………… キリトリセン ……………

住所〒 _____

ふりがな _____ Tel _____

氏名 _____

E-mail _____ FAX _____

編集後記:全国的に猛暑が続いています。7月の平均気温は統計を開始した1898年以降で最も高く(平均気温の基準値からの偏差は+2.16℃)になりました。8月も記録的な暑さになる可能性があり、熱中症の危険度が高まりそうです。これから先、毎年同じようなことを書くことになるのでしょうか。生物への影響は甚大でしょう。 mud-skipper

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

NPO法人ちば環境情報センターのニューズレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。

<小山町での活動>

☆第 227 回 小山町 YPP「畦と水路の整備」 7月14日(土)

報告：江澤芳恵

今日はイノシシ対策の作業をしました。これまでイノシシよけに張ってあったキラキラテープを外して、代わりに田んぼをネットで囲むことに。まずは、すくすくと稲が育っている大椎小とあずみ小田んぼの周りをぐるっとネットで囲みました。今日は前日までの猛暑もやや収まり、作業の後田んぼに吹く風は心地よく感じました。追って、その他の田んぼもネットで囲む予定です。このネットがイノシシから稲を守ってくれますように。

参加者4名(大人4名)

☆「山の整備と案山子作りの準備」

報告：赤シャツ親父

28日、29日に田んぼのオダ用の竹を採らせていただいている山の整備を行ないました。枯れ竹、アオキ等の低木の伐採、おだに用いる成熟した竹の切り出しの後、8月に予定している小学校田んぼの案山子づくり用材の整備・確認等を行いました。10年程前に山の整備を行った頃には、道路より投げ込まれた缶、ゴミなどが数多く回収されましたが、今回はジュース等の缶5本とゴミが少々でした。山の見通しが良くなることでゴミの不法投棄の防止にもつながる印象です。

☆令和6年度期 あずみ小学校田んぼ草取り作業

報告：たんぼぼ

7月初旬に予定していた草取り作業の授業は、雨天で延期の後、気象庁の熱中症警戒アラート発令のため中止となってしまいましたので、小学校田んぼ周囲やYPP管理田の草刈り、草刈り作業をコツコツと行いました。7月11日より順次出穂が始まったため、田んぼ内の草取り作業は以降行わないこととしました。元気に育てほしいと願うばかりです。

【谷津田・季節のたより】 2024年 7月

<下大和田町> 報告：平沼勝男

7/14 田んぼ周辺ではセリの花が可憐に咲いていました。カントウヨメナも咲き始めました。森ではニイニイゼミが鳴き始めました。いよいよセミの季節到来です。野鳥のさえずりはウグイス、キビタキ、ホオジロが聴こえました。

トンボではハグロトンボが出始めました。チョウも種類多く見かけました。タテハチョウ科のコミスジが葉の上に止まり、シロチョウ科のモンキチョウがヒメジョオンの花で吸蜜。モンキアゲハやムラサキシジミも見かけました。

<小山町> 報告(た：たんぼぼ、高：高山)

・セミの初鳴き：ニイニイゼミ(7/5)、ヒグラシ(7/5)、クマゼミ(7/16)、アブラゼミ(7/20)、ツクツクボウシ(7/22)、ミンミンゼミ(7/23)

・稲の出穂開花状況：コシヒカリ(7/11) 黒米(7/11)

7/2 ウスバキトンボの大群が田んぼの上を舞う、セリ、アキノタムラソウが開花(高) 7/4 田んぼからマユタテアカネが次々と羽化、林縁でヤマノイモの花が咲く(高) 7/6 開花したアキカラマツにクマバチが訪れる(高) 7/7 大輪のヤマユリが見事、久しぶりにカブトムシを見かける、林でヤブミョウガが開花(高) 7/23 チョウトンボ今季初、セリ田にタマムシ飛来、今期もタマムシが多い印象(た) 7/24 ギンヤンマが田んぼで縄張り飛翔、ヌマトラノオが咲く(高)

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 ,

E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・第296回 観察会とゴミ拾い

日時：2024年 9月 1日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：秋の花が咲き始め、赤とんぼも色付く頃です。トンボの調査をしながら谷津と森を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100円

※8月10日(土)に予定されていた「かかしづくり」は実施しません。

<小山町谷津田>

▼今月の小山町 YPP の定期的な活動はお休みします。

